

童

2020年8月28日

猛暑が続く中、2学期が無事開始されました。お盆が過ぎると秋の気配と言うのが、小さい頃からの長野の定番だったのですが、幼少期からのイメージの世界がどんどん覆される世の中になり、不安な限りです。それでも、水田や果樹園、そして野原や森の移ろいは、ほとんど幼少期のそれと変わらず、お米は出穂し、リンゴは実り、ススキやワレモコウが眼を楽しませてくれ、栗の赤ちゃんが膨らんできています。これを見ると、本当にほっとします。さらに、朝晩の風は確実に冷たくなってきており、明け方は布団をかぶらないと寒いほどです。まだまだ大地はクーラーは必要ない暮らしですが、いずれは温暖化のためにどんなことになるやら、それを考えるとぞっとします。そのために、出来る事は、暮らしの周囲を緑化すること、どんどん木を植え、森を作ること、特に北側に森を作り、高気密高断熱の家作りではなく、北側に大きな窓を作り、南北の風を取り入れる日本家屋の家を、森と一緒にセットで作る時代が来ることを願います。

大地は、そんな環境作りをしてきたお陰で、子ども達の過ごす室内は、とても快適です。北の魔女の森は、まさに魔女どころではなく、天使の森の如く、その恩恵は絶大です。猛暑の中での泥遊びの場所も最高です。大きなナラの木陰での泥遊び、それに隣接している流し そうめん、ここで楽しむ一日は、最高の贅沢スペシャルコースですね。もちろん、炎天下は暑いですが、シュタイナー教育の感覚器官の形成のなかでの、4つの感覚のひとつ、生命感覚を磨くには（アー、気持ちいいと言う感覚）、最高の環境です。ここに、冷たい湧き水、小川があれば、大地は、世界最高の環境なのではないですか！！？

コロナが収まらず、まだまだ不安で見通しのつかない日々が続きますが、大地は、森や自然に守られているという 根拠のない自信を胸に、例年通り、2学期を、大人は曇りない精神とはつらつとした気持ちで、元気に暮らしていくことこそ、子どもたちに明るい未来を保証出来ると信じています



【キャンプとあせも】

7月23日に年長児のお泊まり保育から始まった、大地の恒例のサマーキャンプは、まさにロングランの末、8月21日の最終公演を無事迎えることが出来た。1988年に野外教室大地として、30歳の時に初めてサマーキャンプを始めて以来、ベスト5に入るほどの違った意味で、3密どころか超過密日程でやり遂げた日々であった。当時は、ほとんど一人で、バスの運転、引率、指導、炊事、睡眠と（妻は子育て真っ最中!）とやりくりし、それでも妻に大型免許を取得してもらい運転補助してもらったり、妙高高原笹ヶ峰まで、大勢の子どもたちの焼きそばを、家庭用の小さなコンロで調理して運んでもらったり、さらに、実家の汲み取り用のトイレが、大勢の子供たちが短期間に宿泊してすぐに満杯になったり、キャンプ中に、疲れのため点滴を打って奮闘したりで、若さの勢いでのエピソードは事欠かない。

現在は、がーくんやなーな達の若きスタッフのお陰で、隠居の影が濃くなり、もっぱらガンガーで炊事をしたり、準備をしたりの仕事に明け暮れることが多くなってきたが、子どもの命を預かる、安全と健康を維持するという精神的な気持ちは、逆に年を重ねるごとに、変わらないどころかどんどん強くなってきている。ホームページの園長日記でも何度も繰り返しているが、特に今年は、例年になく、コロナの問題（現在も続いているが）が大きかった。

3月の春休みも、神奈川や東京方面からの子供たちをスプリングキャンプで受け入れて楽しんだ。さて、夏休みはどうするか。子供たちは、過去を悔いず、明日を憂えず、現在を生きる といえども、コロナの暮らしは、過去の教訓を生かし、明日を心配し見通して暮らさなければならない。コロナにかかり自分の健康を心配することよりも、かかることにより、世間や社会からどんな眼で見られるかどんな罵詈雑言や批判を浴びるかなどの精神的健康被害におびえる方が強い。サマーキャンプの計画を立てるにあたり、自分の中で一番の不安は何か と考えた結果、自己保身 自己防衛だと気づいた。コロナに罹患する恐怖よりも、大地での風評被害、大地への批判 罵詈雑言 新聞掲載 社会からどんな眼で見られるか・・・におびえている自分に気が付いた。

普段から、大地は子どもサイドに立つ、子どもたちが心から楽しめるのだったら、警察に連行されても（軽トラに子どもたちを乗せる・・・） 社会から白い目で見られても、それを覚悟で子どもたちと過ごす とかっこいいことを言っている自分が、結局それにおびえているのかと。究極、子どもたちが心から楽しめる（世間体や大人の自己保身のために世知辛い世の中になることを軽蔑してきた自分にとって）暮らしをしていたら、神様や世間や社会は、必ず味方してくれる、ご褒美をくれると信じてやってきたと自負してきたのに、今回は弱気になっているんじゃないかと。火事でも怪我でも、不死鳥のようによみがえってきたし、不幸不運が、多大なご褒美をもたらしてくれたし。

こんな時だからこそ、覚悟を決めよう、神髄を見せよう、悔いのないようにしよう、子どもたちが大人の不安に巻き込まれず、未来にふたをせず、将来を楽しみに生きる保証を少しでももたらそう。それには大人、大地が模倣になるように生きようと覚悟を決めた。子どもたちのために、自己保身を捨て、過去と変わらずに現在を楽しむ、もちろん、考えられる出来るコロナ対策は万全を期したうえで、その憂いを見せずに、子どもたちと過ごそうと覚悟を決めた。過去そうだったように、子どもたちのために身を挺してやることには、必ず神様は味方してくれたし、悪いようなことは起こらなかつたし、最終的に祈りがあれば、大丈夫。これらの根拠のない自信を胸に、始めたキャンプ。

キャンプが開始されると、正直 今日でも無事終了、明け方 検温して、皆無事元気、そして今日でも無事終了 という連続の日々。カレンダーの一日一日が長い。珍しく、終了予定の8月21日を心待ちにしている自分がある。ああ、これじゃだめだ、子どもたちに失礼だ！ と心で叫ぶ自分がいた。それでもこんな自分が出てくると、朝陽を見て、青空を見て、夕焼けを見て、星空を見て、大地の自然を見て、大丈夫 大丈夫 大地は 治外法権、大地は陸の孤島 守られているからと 念仏を唱えていた。（今でもそうだが）

コロナで3密を避けるという対策を、大地は数年前から先見の明を持ってやってきたでしょ。外の芝生で眠る、室内活動は全くせず室内は使用しない、食事 お風呂も外、今年のキャンプは、ほとんど大地敷地内、外へ行っても笹ヶ峰等の、マイナーな場所。食事はすべて竈で、子どもたちは、煙を24時間浴びて、燻製されて病原菌から守られている。自然食中心で、抗体力アップ。そして、毎日楽しく笑って活動して、心身ともに健康なので、免疫力アップ。これだけの条件があれば 最強でしょう！！ 最終的には、こんな開き直りで走り続けたサマーキャンプ。

まだまだいけると思いきや、リビングの机の上には、多い時で6種類の薬が並んでいた。薬害！！ 血圧の薬 血液サラサラの薬 関節神経痛の薬 風邪の漢方薬 梅肉エキス そして、あせもが全身に広がり、それを抑える西洋医学の薬2種 セミの抜け殻 琵琶エキスなど。それらの薬も、8月21日のキャンプ終了と同時に、必要なくなった。

やはり、心身とも すべてをかけて生きることは魅力的だ。こんな日々をさらに送っていきたい。それは、素直に純粹に喜んでくれる子どもたちの笑顔があるからだ。本当にこの仕事 暮らしは楽しい！！